

# 出版目録

## 2019.11版



図書出版

文学通信

Bungaku-Report.com

★全国の書店でお求めいただけます。直接ご注文される場合は以下までご一報ください。

★以下に移転しました！ お気軽にお立ち寄りください。

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-35-6-201 電話03-5939-9027 FAX03-5939-9094 info@bungaku-report.com

<https://bungaku-report.com/>

# デジタル学術空間の作り方

仏教学から提起する次世代人文学のモデル

下田正弘・永崎研宣(編)

ISBN978-4-909658-19-7 A5判 360頁  
価格2,800円+税



ライブラリアン、コンピュータサイエンティスト、人文学者...複数のプレイヤーによって共同で創りあげる、デジタル学術空間という「知」のかつてない新たな形態に、これまでどう対応してきたのか。そしてこれから、どうデジタル学術空間を創っていくのか。仏教学から提起する書。  
第1部「デジタル学術空間の作り方」では、SAT大蔵経テキストデータベース研究会がデジタル研究基盤を構築するにあたり実現してきたものを創成期(1994年)から現在までを詳述。第2部「仏教学とデジタル環境から見える課題」では、全体を「デジタル技術を作る・使う」「研究基盤を作る」の二つにわけ、研究者たちが課題の提起とともに、その解決の方向を示した。

# 注釈・考証・読解の方法

国語国文学的思考

白石良夫(著)

ISBN978-4-909658-17-3 四六判 288頁  
価格3,200円+税



注釈していれば、知識は自然に増える。増えた知識は想像力を掻き立て、小難しい理論や七面倒な方法論にふりまわされなくて済む。昔の人の古典読書を体験するために、心掛けるべきは何か。後進に伝える古典読解の方法!  
「後進に伝える研究方法」をコンセプトに、古典の注釈・考証・読解の方法を伝える。国語学と国文学、あるいは中古、近世、近代など、世間で勝手に作りあげられたジャンルや文学史の壁を遠慮せず乗り越え、古典を読み解くにはどうすればいいのか。  
先人に学びながら古典を読み解く術を、全四部で伝えていく。対象とするものは、源氏、徒然、武家説話、考証随筆など幅広く、典籍解題の問題まで含めて論じる。

# 全訳 男色大鑑〈歌舞伎若衆編〉

染谷 智幸・畑中 千晶(編)

ISBN978-4-909658-04-3 四六判 254頁  
価格1,800円+税



西鶴がオレ様全開で描き尽くした歌舞伎若衆図鑑、遂にわかりやすい現代語で登場。若衆(江戸のジャ○ーズJr.?)に熱を入れすぎで、遂に西鶴本人も登場し、なんと脱ぎます(実話)。本書の舞台は歌舞伎が演劇として確立する直前の激動の時代。歌舞伎劇場は今とは全く違う、まさに小屋。今でいえば、50人くらいが入る場末のストリップ小屋に200人くらいが雪崩れ込むような場所。「いつそのこと殺してくれ」と、歌舞伎若衆の美しい目元に心射ぬかれた見物客たちが満ちて、美しさに酔い痴れた観客が叫ぶような場所。西鶴はそんな凄艶な世界を愛しすぎるゆえに「この道すきもの我なれば」(歌舞伎に関してはほかの誰よりも通じている私なので)と、遂に自ら作品中にさえ顔を出す始末。  
この躍動感にあふれる世界で、西鶴が描き出したものは何か。

# 古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。

勝又基(編)

ISBN978-4-909658-16-6 A5判 220頁  
価格1,800円+税



古典否定派・肯定派の本物の研究者があつまって論戦に挑んだ、2019年1月の伝説のシンポジウム「古典は本当に必要なのか」の完全再現十仕掛け人による総括。古典不要論を考える際の基本図書となった本書を、これから各所で真剣な議論が一つでも多くされていくことを祈りながら刊行します。  
このシンポジウムで否定派が張った論陣はどのようなものだったのか。これに対して古典の研究者や中高の国語教員はどう反論したのか。その議論から浮かび上がった問題は何だったのか。本書はその様子を再現したうえで、当日のアンケート、インターネットによるコメント投稿を収録し、登壇者のあとがきを加え、最後に編者自身の総括「古典に何が突きつけられたのか」(3万2千字)を収録します。本書全体で、より深い議論への橋渡しにしようとするものです。人文学や文学、古典の危機について考えていく際の必読書にはからずもなっています。

# ネット文化資源の読み方・作り方

図書館・自治体・研究者必携ガイド

岡田一祐(著)

ISBN978-4-909658-14-2 A5判 232頁  
価格2,400円+税



私たちが残すものは、私たちそのものだ。  
インターネット環境において、文化資源のコレクションをバーチャル空間に作り上げる営みについて、多くの事例から縦横無尽に論じる書。日々変わりゆく社会のなかで、資料の公開やその方法論をどう考えて、理路を立てていけば良いか。文化を残すとはどういうことなのかという根源的な事柄から、デジタル・ヒューマン・ティーズの最新の成果や、情報発信の問題等々、これからのガイドとして、入門として、必読の書です。  
本書はメールマガジン『人文情報学月報』(人文情報学月報編集室発行)の連載「Digital Japanese Studies寸見」の2015年4月号掲載の第1回から2018年12月号掲載の第45回までの原稿をもとに加筆修正の上、関係画像を差し込むなどの編集を加え刊行するものです。

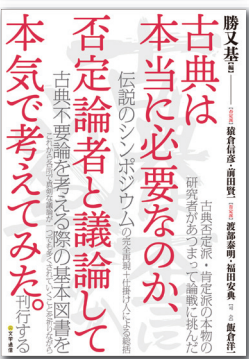
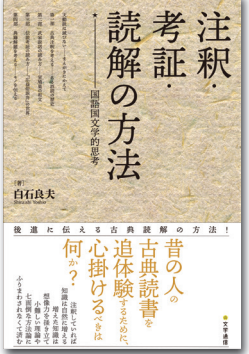
# 真山青果とは何者か?

星槎グループ(監修)  
飯倉洋一・日置貴之・真山蘭里(編)

ISBN978-4-909658-15-9 A5判 272頁  
価格2,800円+税



元禄忠臣蔵の作者、真山青果。その驚くべき全貌を初めて明らかにする書。  
あまりに理屈っぽく長大な台詞、「暗い」人間認識は、今日の観客からは敬遠されるのかもしれない。しかし、こうした苦悩を描いた点こそ、青果が昭和初期の大劇場を代表する劇作家として広く支持された理由があったのではないかと。孤独感や人生のままならなさ、現代の人間にとってもけつて無縁のものでもなかならう。劇作家、小説家、研究者等、容易に捉えきれない様々な顔を持つ青果に、改めて光を当て、その全貌に迫る。  
執筆は、飯倉洋一、日置貴之、真山蘭里、青木稔弥、青田寿美、有澤知世、井上泰至、大橋幸泰、神山 彰、熊谷知子、河野光将、後藤隆基、高野純子、寺田詩麻、仲 沙織、丹羽みさと、広嶋 進、福井拓也、宮本圭造、村島彩加、山中剛史、中村梅玉、織田紘二、中村哲郎、桑原寿紀の全25名。







# 中華オタク用語辞典

はちこ(著)

2刷



ISBN978-4-909658-08-1  
四六判 220頁  
価格1,800円+税

中華圏で使われているオタク用語をまとめた初の辞典!  
日本と中国のコンテンツ環境を知るために、中国語のレベルアップに、国を超えたダイナミックな言語運用を知るために、必携の一冊!

本書のもととなった、現在3冊刊行されている同人誌「中華オタク用語辞典」は、2017年8月のコミケで初登場。好評を博し、神保町の中国(大陸・香港・台湾)に関する本の専門店、東方書店では何度も売り上げ1位になるなど圧倒的な売れ行きを誇った名著。本書は同人版に加筆修正をおこなった上、さまざまなコラム、索引を追加し送り出します。

中華系、主に大陸側のインターネット上にあるオタク用語の記録・解説を行う本書は、それぞれの言葉について、「中国語読み」「分類」「意味」「類義語」「派生語」を掲げたいうえで、元ネタ・派生するもの・ニュアンス・活用法などの解説を加えます。また実践的にオタク用語を使うことも想定し、「例文」も掲げました。



# 〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典

長島 弘明(編)

ISBN978-4-909658-13-5 A5判 552頁  
価格3,200円+税



けた外れに素晴らしく、とんでもなく面白い!  
有名無名にかかわらず、とっておきの面白作品を厳選し、73項目・100作品以上から編んだ、はじめての江戸文学事典。同時に本書はめぐるめく魅惑の江戸をもっと知りたいという欲求に応える、江戸文学という新世界への入門書です。読むのにも調べるのにも便利で、この1冊で江戸の文学がまるっと楽しめます。  
本書からあふれ出す、明るく、雄々しく、気高く、やさしく、優雅な、そして、時には卑屈で、脳天気で、意地悪で、怠け者で、しみつたれた江戸人たちの息づかいは、読む人を心豊かに幸せにしてくれるはずですよ。



# 歴史情報学の教科書

歴史のデータが世界をひらく

国立歴史民俗博物館(監修)  
後藤 真・橋本 雄太(編)

ISBN978-4-909658-12-8 A5判 208頁  
価格1,900円+税



2刷

人文学に必要なこれからの情報基盤の作り方は。  
複数の手段を用いて、新たな歴史像に迫るために。情報を共有して課題を解決するプラットフォームを構築するために。情報を可視化して、社会の深層にコミットしていくために。  
人文学は社会そのものを考え、社会のあるべき姿を考える学問である。その可能性を追求するために、強力な援軍となっている歴史情報学の現在と未来を解説し、学問の基盤の今後を問ひかけ、参加を促す。歴史情報学で出来ることを、まずは知るところからはじめよう!  
人文学研究者はもとより、行政機関・図書館・博物館等の学術機関などにだすさわる方必携の書。執筆は、後藤 真、橋本雄太、山田太造、中村 覚、北本朝展、天野真志、関野 樹、鈴木卓治、永崎研宣、大河内智之。



# 江戸の子どもの絵本

三〇〇年前の読書世界にタイムトラベル!

叢の会(編)

ISBN978-4-909658-10-4 A5判 112頁  
価格1,000円+税



江戸時代の桃太郎、かちかち山、金太郎は今とはちょっと違っていた。昔の登場人物たちに会いに行こう!日本の子どもたちが本を読むようになったのはいつ頃からだろうか。この疑問を考えると、江戸時代の絵入り本はさまざまな情報を提供してくれる。特に江戸時代中期頃に上方(関西)で出版された「草双紙」は、子どもたちも読んだと思われる作品群として注目されている。本書はそれらの中でも多種多様な内容をもつ「赤本」などから四作品(桃太郎、かちかち山、金太郎、寺子短歌)を取り上げ、原典と関連資料を収録。原典は読みやすくした翻刻付き。じっくりと内容を読み、関連資料と読み合わせることで、子どもと本をめぐる課題をいろいろな視点から考えられるようにしてある。江戸の子どもの絵本入門!



# 二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎

ビュールクトーヴェ(著)

ISBN978-4-909658-09-8 A5判 272頁  
価格6,000円+税



江戸の歌舞伎劇場という一大商業圏は、こうして成立した。  
役者と観客が文学、信仰、風俗を共有し、茶屋や商人を巻き込む要となった江戸歌舞伎劇場。歌舞伎の転換期といわれる享保期(1716~1736年)、二代目市川團十郎はそこでなにを演じ、どのように劇場を切り盛りしたのか? 遺された日記「老のたのしみ」「柿表紙」「柏庭日記」「病中日記」「市川團十郎日記発句集」の写本をはじめとした膨大な資料を駆使し、第一部「享保期の江戸歌舞伎」で二代目團十郎の演技・演出について、第二部「享保期歌舞伎の興行」で江戸歌舞伎劇場経営の役割について実態を解明する。欧米演劇研究の文脈で歌舞伎をとらえる端緒となる画期的研究書。江戸歌舞伎の「転換期」に何が起こっていたのか。そこには、役者・二代目團十郎が身分を超えて観客と、歌舞伎劇場は業種を超えて近隣商業を巻き込み、それぞれ発展していく姿があった。



# 新 神風と悪党の世紀

神国日本の舞台裏

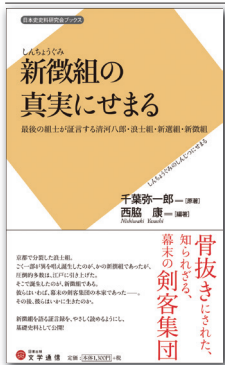
海津 一朝(著)

ISBN978-4-909658-07-4 B6判 256頁  
価格1,200円+税



それにしても、祈禱という現実的な効果のまったく期待できない政策がこれほどまでに重んじられ、大風が吹いたのも神の加護のおかげだと考えられるようになったのは、なぜなのだろう。異国襲来と天変地異で、神威高揚はなぜ起こったのか。  
民衆から中世の風景を再現して動乱の政治史を描き、神の国の勃興する時代の空気を切り取った、名著の大幅増補改訂新版。  
【それにしても、祈禱という現実的な効果のまったく期待できない政策がこれほどまでに重んじられ、大風が吹いたのも神の加護のおかげだと考えられるようになったのは、なぜなのだろう。「我が朝は神国なり」と言って伊勢神宮への奉幣(宝物の献上)にこだわる朝廷、神領興行法という不可解な法令を出して武士たちの所領を奪い伊勢神宮に与えた幕府—このような神威しん いの高揚はどうして起こったのか。】...第一章より





# 新徴組の真実にせまる

最後の組士が証言する清河八郎・浪士組・新選組・新徴組

西脇 康(編著)

ISBN978-4-909658-06-7 B6判 306頁  
価格1,300円+税



骨抜きにされた、知られざる幕末の剣客集団の真実にせまる。京都で分裂した浪士組。ごく一部が異を唱え誕生したのが、かの新選組であったが、圧倒的多数は、江戸に引き上げた。そこで誕生したのが、新徴組である。彼らはいわば、幕末の剣客集団の本家であった。その後、彼らはいかに生きたのか。新徴組を語る証言録を、やさしく読めるようにし、基礎史料として公開する。



# 紙が語る幕末出版史

『開版指針』から解き明かす

白戸 満喜子(著)

ISBN978-4-909658-05-0 A5判 436頁  
価格9,500円+税



書物の近代化は江戸時代からはじまっていた。和紙から洋紙へ、和本から洋本へ。書物の形態が変化するとき、人は何を考え何を目指すのか。幕末にこれからの出版を考えるために編まれた、出版統制に関する記事を集めた資料、『開版指針』(写本)の全貌を初めて紹介。この文献記録の分析を行い、同時に顕微鏡による料紙観察という新たな書誌学的手法を取り入れ、江戸末期から明治期にかけての日本における書物の変容について考察する。文献に記録された情報と、書籍を構成する紙を分析することで捉えられた、新しい日本幕末出版史。書物・書籍はどのような要因・条件をもって作り上げられてきたのか。その根源に迫る。



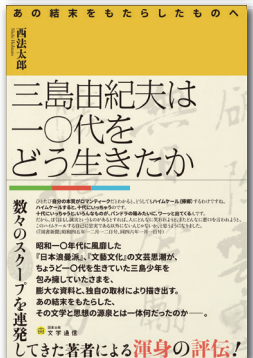
# 全訳 男色大鑑<武士編>

染谷 智幸・畑中 千晶(編)

ISBN978-4-909658-03-6 四六判 240頁  
価格1,800円+税



殺されたい、愛するお前に...。おお、これが究極の純愛というヤツなのか。井原西鶴が1687年に描き出した、詩情あふれる華麗・勇武な男色物語が、遂に現代に甦る。若衆と念者の「死をも辞さない強い絆」は、常に焦点として描かれる三角関係の緊張感とともに、長い間、誠の愛を渴望して止まぬ人々の心を密かに潤し続けてきた。世界の奇書として名高い『男色大鑑』。全集でしか読めなかった作品群が、わかりやすい現代語と豪華漫画家陣「あんどろい、大竹直子、九州男児、こふで、紗久楽さわの挿絵によって鮮やかに息を吹き返す。天才、井原西鶴による300年前のストーリーが今ここに復活。魅惑の古典世界への道しるべが、ここに登場。古典文学は、ここから学ぶと絶対楽しい!



# 三島由紀夫は一〇代をどう生きたか

あの結末をもたらしたものに

西法太郎(著)

ISBN978-4-909658-02-9 四六判 358頁  
価格3,200円+税



数々の、三島由紀夫に関するスクープを連発してきた著者による渾身の評伝。昭和一〇年代に風靡した『日本浪漫派』、『文藝文化』の文芸思潮が、ちょうど一〇代を生きていた三島少年を包み擁していたさまを、膨大な資料と、独自の取材により描き出す。あの結末をもたらした、その文学と思想の源泉とは一体何だったのか。東文彦、保田與重郎、蓮田善明の三者と、それらを横軸でつなく神風連を中心に、一〇代の三島とその生涯の秘密を探り出す。なお本書冒頭のプロローグにて、三島由紀夫の墓所に関するスクープを掲載しています。



# 国語の授業の作り方

はじめての授業マニュアル

古田 尚行(著)

ISBN978-4-909658-01-2 A5判 320頁  
価格2,700円+税



教育実習生とその指導教員のために。これから教員になる人と、すでに教壇に立っているすべての人に。本書は、中学校・高等学校で初めて授業をすることになる教育実習生を念頭に、実際に国語の授業を組み立てていくノウハウを、授業を詰めていく過程や、振り舞い方や言葉遣い、それらを支える考え方や思想、またその意味など、いわゆる暗黙知とされている部分まで踏み込み、言語化して伝えます。どのような学校に勤めようが、どのような授業になろうが、それらに適応する普遍的な国語の授業方法や視点があるとの考えから述べられているので、既に現場に出ている教員にとっても、普段の授業を見直すことができるものにもなっています。また本書で提示される具体的な授業作りは、教育現場と文学・語学研究の場との乖離の問題をより深く見つけ直せるものにもなっています。



# なぜ古典を勉強するのか

近代を古典で読み解くために

前田 雅之(著)

ISBN978-4-909658-00-5 四六判 336頁  
価格3,200円+税



なぜ古典を勉強するのか。私たちが生きるこの時代は、古典的教養とは不要なものなのだろうか。過去とつながっている、今この時代を読み解く、実践の古典入門。全体を「古典入門」、「古典で今を読み解く」、「古典と近代の歴史を知る」に分け、レクチャー。「近代を相対しうる最も強力な装置が古典である」という著者の思想のもと、今とつながっている古典文学の新しい見方を次々と繰り出し、読む者の視界を広げ、古典を勉強する意義を伝える、刺激的な書。